

2019・8・9

消費者の立場から見た 小型家電リサイクルの現状と課題



NPO法人
持続可能な
社会をつくる

元気ネット

事務局長 鬼沢良子

1996年
発足

くらし・地域から出るごみ(環境負荷)に 生活者・NPOとして責任を持ち 持続可能な社会づくりに貢献したい!

家庭から出る
ごみ・資源・CO2

くらしの
化学物質

高レベル
放射性廃棄物

市民・企業・行政の
パートナーシップで解決をめざす!

くらしの課題として
地域で学び合う場づくり

各種リサイクル制度見直しに当り
マルチステークホルダー会議の開催
& 視察調査と提案

「電気のごみ」意見交換会
(資源エネ庁・地域と連携)

3R普及啓発、市民リーダー育成
(3R推進団体連絡会、企業と連携)

2007年から全国で100回の
地域WS・意見交換会を開催、
リスクコミュニケーションのファシリテーター
育成と共に、地域との連携を広げてきた

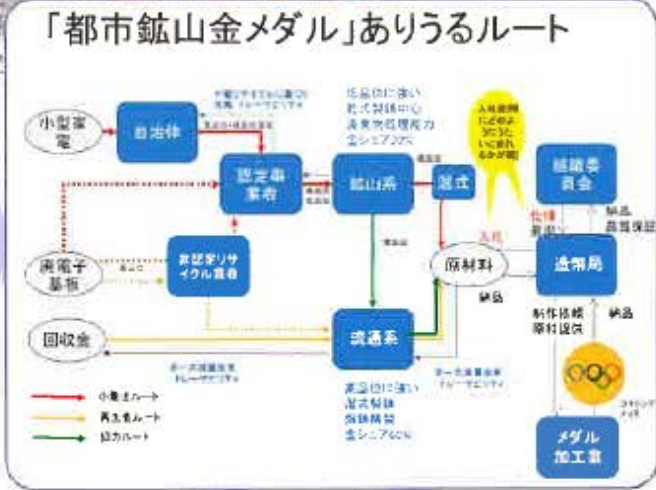
2011年から容器包装の3R普及啓発事業
雑がみ(2013年～)・家電(2017年～)・
自動車(2017～18年)の調査連携事業等

東京2020とそれ以降の循環型社会形成
に向けた共創の場づくりと提案

東京2020と小型家電のリサイクルの推進



中島賢一
（株）リーテム 取締役会長



岩元美智彦
日本環境設計(株) 代表取締役会長

『ドコモケータイリサイクル』お取り寄せプロセス

田中貴金属への信頼の証



都市鉱山メダル制作の可能性について勉強会の連続開催

TOKYO 2020 みんなのメダルプロジェクト

出典：東京2020HP



みんなのメダルプロジェクトの成果と 小型家電のリサイクルの課題



出典: 東京2020HP



- 2017年4月から実施、2019年3月末終了。
- 目標の金属を回収できたことは評価できる。

ほぼすべての自治体が参加したが、全国の市民の認知度の向上が期待通りではなかったのではないか。

東京近郊では認知されていたが、距離が離れるほど関心が薄れていたため、全国の各家庭に退蔵されている小型家電はまだ多いと想定される。

- 有用金属含有家電の家庭内保有 ➡国民への情報発信がさらに必要
- 認定事業者と市町村の情報共有
- みんなのメダルプロジェクトを契機に一人一人の参加意識を高め、継続につなげる
- 自治体は回収品目・回収方法等を選択できる。認定事業者以外にも渡され、回収量が少ない。
- 1人当たり年間約1kgの回収目標 【都市鉱山: 推定65万トン=約844億円】
【29年度実績: 446g/人・年】

今後、更なる小型家電のリサイクルに向けて



◎今後も国内外に向けて、PRが必要



更なる認知度向上、退蔵品を排出する意識改革へ、SDGs達成

◎アフターメダルプロジェクトとして、自治体が主催するスポーツ大会やマラソン大会等で、メダルや入賞記念品(記念プレート等)を小型家電リサイクルによる金属を使用した品物にする。

◎そのために1年前からPRし、回収を進める。

特に、「SDGs未来都市」などが積極的に進める。

終了後には、市民、地域外へも積極的に結果をPRし、市民の協力結果報告と東京2020のレガシーとして引き継いでいることを広報する。

《出しやすさ》 誰でもいつでも出せる、出しやすさが必要

人目のある場所に回収拠点を増やす。

《銀行、郵便局、病院、調剤薬局、図書館等の窓口横、

スーパーやショッピングモールのインフォメーション、コンビニ等》

新しい課題 《リチウムイオン電池の排出》

プラスチックごみの中間処理施設において、リチウムイオン電池単体、リチウムイオン電池内蔵の電気製品が検出されたことのある市町村は半数を超え、そのうち15%の市町村では発煙・発火事故が発生している。

検出物の内訳は、モバイルバッテリー、スマートフォン、ゲーム機、電動歯ブラシ、シェーバー、電子タバコ(加熱式タバコ)、ロボット掃除機など多岐にわたる。(容リ協アンケートより)

また、関東の再処理工場では、3年前に比べると3倍くらい発煙事故が増えている。



発火原因となったリチウムイオン電池

容リ協ニュースNo.81引用

使用済になる
小型家電が
家庭で出始めている

リサイクルマーク



Ni-Cd

ニカド電池



Ni-MH

ニッケル水素電池



Li-ion

リチウムイオン電池

6/1-2 エコライフフェア2019にて
参加者の声



Li-ion

【素朴な疑問】

- ☆リチウムイオン電池って聞いたことあるけど、どれの事？
 - ☆どこに書いてあるの？
 - ☆どうやって外すの？
 - ☆どこを見たら見分けられるの？
- (ニカド電池・ニッケル水素電池・リチウムイオン電池)

今後に向けての期待

《分けやすさ》が重要

- ◎リチウムイオン電池使用の小型家電には表示を明確に《意外と身近な家電に使われていることを知らない》
- ◎小型家電として分類されていない製品の指定を早急に《加熱式(電子)タバコ、輸入製品 等》
- ◎使用中の取り扱い方(衝撃による危険性)の表示
- ◎表示を大きく、わかりやすくする
- ◎使用済み後の排出の仕方(誤ると火災の原因になる)
- ◎電池の取り外しができない家電の排出方法の徹底

小型家電を使用している消費者には、情報が届いていないため、間違った出し方で火災が起きているとは思ってもない。悪意がなく誤って容器プラに入れてしまう。

益々の連携が必要:

環境省、経済産業省・自治体・製造業者・小型家電リサイクル認定事業者・産業廃棄物処理業界・(一社)電池工業会・(一社)JBRC・そして消費者

結果的に小型家電の益々の普及と安全な利用、使用後の正しい排出により、資源の有効利用につながる。